歯医者さんが教える 歯と口腔の健康管理

〔第11回〕インプラントについて①

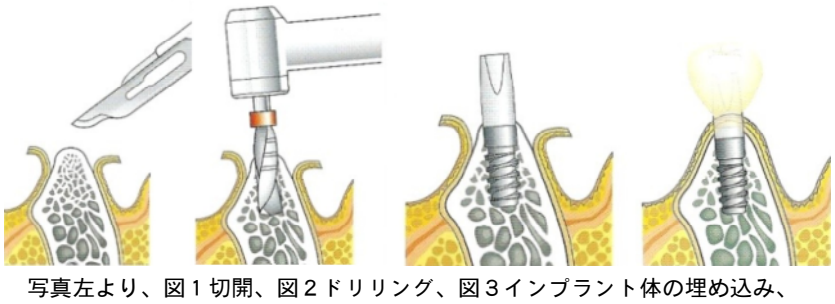
監修／歯学博士　鹿 島　健 司

大切な歯を失ってしまうと…歯の抜けた状態では、うまく話すことができない、食べ物を噛むのが大変、見た目も悪いなど、様々な悪影響が生じます。さらにそのまま放置しておくと、１．抜けた歯の周囲の歯が動いてしまう。２．対合する歯が浮いて弱くなる。３．周囲の歯もだんだん悪くなってしまう。４。歯全体や、あご全体が悪くなり、噛み合わせが悪くなってしまう。５．噛み合わせが悪いと、からだ全体に様々な悪影響を及ぼしてしまう。等々、大変なことになってしまいます。放置せずに、義歯（入れ歯）やブリッジ、インプラント等によってきちんと治療して手入れをしていくことが大切です。

インプラント治療は、歯の抜けた部位に人工の歯根を手術的に埋め込んで、人工歯根が顎の骨に固着した後、人工歯冠を装着する治療法です。現在の歯科医療のなかでインプラント治療は広く浸透し、通常の治療の一部として認知されるようになってきました。歯の欠損に対して、義歯（入れ歯）のような取り外しの手間がなく、違和感も少なく、強固な咬合力（噛む力）を得ることができ、治療技術や材料の進歩によってその適応範囲も広がってきています。

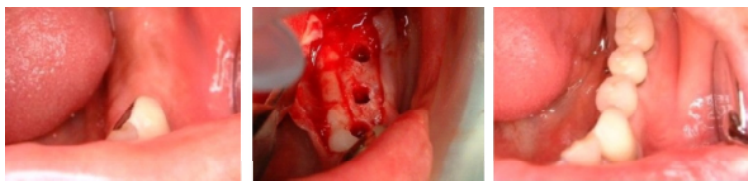
写真１　各種インプラント体
（グレーの部分がハイドロキシアパタイト）

インプラント体の材料はほとんどチタンが用いられ、より早期に骨と固着できるように、最近では表面にリン酸カルシウムの一種で、骨や歯の主要成分であるハイドロキシアパタイトをコーティングしたものが多く用いられています。

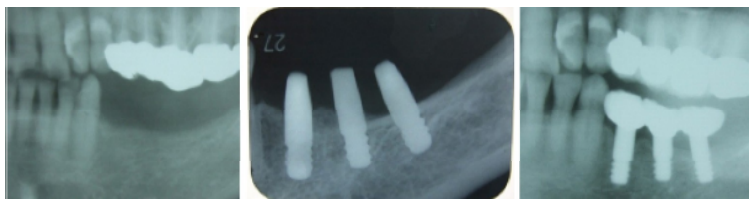


写真左より、図１切開、図２ドリリング、図３インプラント体の埋め込み、図４人工歯冠の装着

インプラント治療の手順をシェーマ（**図１～４**）で表わし、**症例写真２～７**を供覧します。



左より写真２、３、４
（インプラント埋め込み前と術中、人工の冠を装着後の写真　75歳女性）



左より写真５、６、７
（術前・埋め込み直後・冠の装着後のＸ線写真）

このように、義歯（入れ歯）を装着しなくてもインプラントで自分の歯のような感覚で咬合（咬み合わせ）を回復できることは、高いＱＯＬ（Quality of Life－生活の質）を獲得することにつながると言えましょう。

上段時計回りに写真８、９、10、11
（インプラントで修復した症例　60歳男

また、周囲の健全な歯を削ってブリッジにすることを避けられることも、インプラントの大きな長所の一つです。**写真８、９、10、11**は、通常なら欠損部の両サイドの健全な歯を削ってブリッジにするのをインプラントで修復した症例（60歳男性）です。

以上、インプラント治療の長所をまとめると、１．自分の歯と同じような感覚で噛むことができる。２．噛む力、味覚が低下せず、違和感・異物感がない。３．周囲の健康な歯を削らないで治療できる。４．審美性が良好である。５．顎の骨がヤセるのを防ぐことができる。となります。

監修／鹿島健司（歯学博士）。1958年１月生。かしま歯科医院院長。
川口歯科医師会学術部長　日本大学兼任講師